

# レポート作成上のルール

- レポートには「要旨」「背景・目的」「仮説」「方法」「結果」「考察」「結論」「今後の展望」「参考文献」の9項目を記載する。ただし研究内容によっては「仮説」は省略しても良い。
- 用紙サイズは「A4」を使用する。
- フォントについて
  - 日本語は「明朝体」またはそれに準ずるもの、英語は「Times New Roman」またはそれに準ずるものを使用する。
  - 本文のフォントサイズは10～11ポイントにする。本文以外については不自然の無い範囲で変更してもよい。
- 英数字は、全角を使用せず半角で表す。
- 図・表について
  - 図や表にはタイトルと通し番号をつける。
  - 写真、グラフは「図」に含める。
  - グラフには[軸]と[単位]をつける。

例

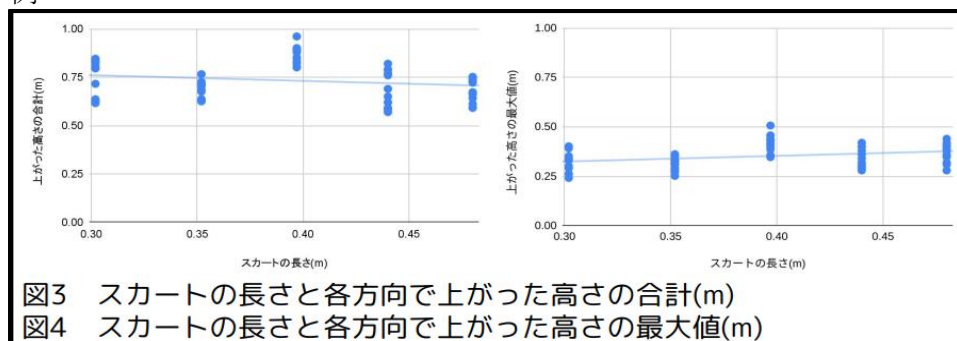


図3 スカートの長さと各方向で上がった高さの合計(m)

図4 スカートの長さと各方向で上がった高さの最大値(m)

- 「です・ます調」ではなく、「だ・である調」を使う。
- 生物名を記載するときは、初回は必ず学名で記入する。その際はイタリック体(斜体)にする。
  - × 納豆菌
  - *Bacillus subtilis*
- 化学式を用いる場合は、「上付き」「下付き」を選択し、正しい表記にする。
  - ×  $MnO_4^- + 8H^+ + 5e^- \rightarrow Mn^{2+} 4H_2O$
  - $MnO_4^- + 8H^+ + 5e^- \rightarrow Mn^{2+} 4H_2O$
- 参考文献の書き方
  - 通し番号をふる。
  - 書籍の場合
    - ⇒ 全著者の氏名または組織名 (発行年) 『書名』 発行元
    - 例: 本厚木研究会(2022)『本厚木の研究』 ○○出版
  - ウェブページの場合
    - ⇒ 全製作者の氏名または組織名 ウェブページ名 URL 閲覧した年月日
    - 例: 厚木太郎 2022 本厚木駅の七不思議 <http://~> 2022年10月1日閲覧
  - 本文中への引用の仕方は以下のとおり
    - ①文末に入れる場合
      - ⇒ [その文献の通し番号を、上付き文字にする]
      - 例: それは○○○である<sup>1</sup>。
      - ということである<sup>2,4,7</sup>。
    - ②文献の著者名・団体名を出す必要がある場合
      - ⇒ [著者名・組織名に、上付き文字で通し番号を添える]
      - 例: 大沢<sup>8</sup>は、○○○であることを示した。